

2026年2月5日

NTTアドバンステクノロジー株式会社

## AIエージェントとの連携でさらに高度な自動化を実現する 「WinActor Manager on Cloud」の新バージョンを提供開始 ～AIの柔軟な判断力×RPAの確実性で複雑な業務も効率化～

NTTアドバンステクノロジー株式会社(以下:NTT-AT、本社:東京都新宿区、代表取締役社長:伊東 匡)はRPAツールWinActor®の管理製品「WinActor Manager on Cloud(以下:WMC)」に、Model Context Protocol<sup>\*1</sup>(以下:MCP)サーバー機能を追加した新バージョン「Ver.4.0」を、2026年2月16日から提供開始します。

次世代の業務自動化を支える「WMC Ver.4.0」は、AIエージェントからの指示を「MCPサーバー」機能で処理し、WinActorシナリオを実行する仕組みを提供します。これにより、AIの柔軟な判断力とWinActorの確実性を組み合わせ、複雑な業務も効率的に自動化できます。既存のWinActorシナリオを最大限に活用することで、追加コストを抑え、より高度な自動化を実現する基盤としてご利用いただけます。

また、標準プロトコルであるMCPを採用したことにより、WinActorが持つ自動化技術を世界中のAIエージェントが利用できるようになります。

WinActorは、多くの企業で導入され、特に定型業務の自動化に貢献してきました。今後もさらにAI連携機能の強化に取り組むことで、AX(AIトランスフォーメーション)・DX(デジタルトランスフォーメーション)製品の社会実装を促進してまいります。

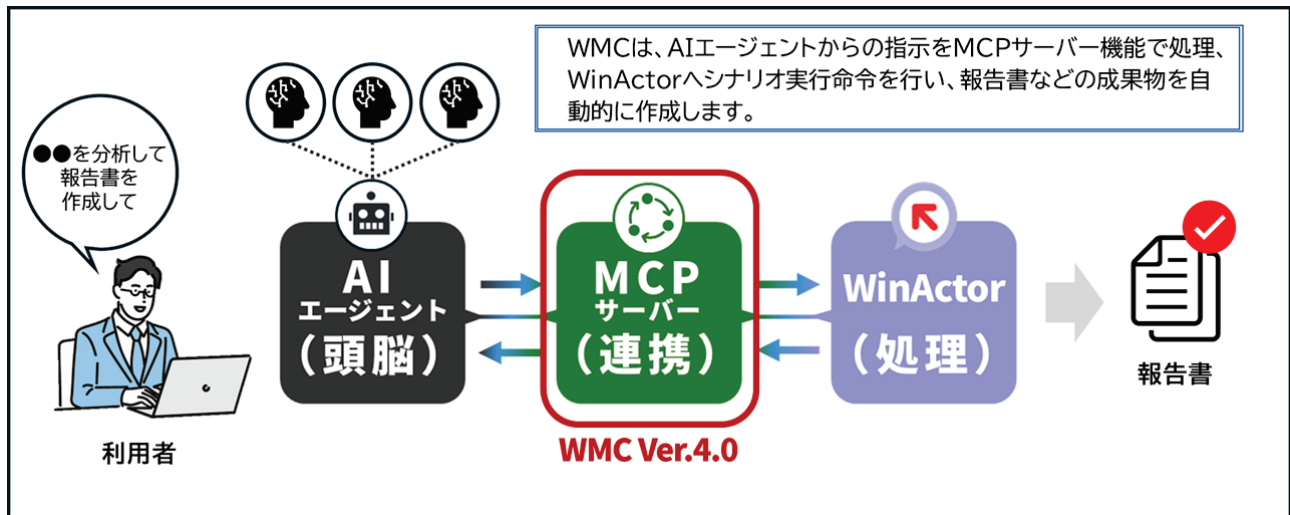
### 1. 背景

企業のDX推進において、RPAは定型業務の自動化に大きく貢献してきました。近年は、非定型な情報処理や複雑な業務プロセスへの対応が求められるようになり、さらなる進化が期待されています。こうしたニーズに応えるため、RPAにAIエージェントを組み合わせる次世代の業務自動化が注目されています。

### 2. 新機能概要

「WMC Ver.4.0」に、新規追加した「MCPサーバー」機能では、MCPクライアントとして動作するAIエージェントからの要求に応じて、シナリオを実行できる仕組みを提供します。

たとえば、「●●を分析して報告書を作成して」と指示すると、AIエージェントが必要なデータを収集・分析し、要点を整理します。その後、WinActorが報告書のフォーマットに沿って内容を自動入力し、指定されたシステムや帳票に転記します。これにより、従来は人手で行っていた分析・まとめ・入力の作業を大幅に削減し、業務のスピードと正確性を劇的に高めます。



【WMC Ver.4.0の役割】

### 3. 主な特長

#### (1) AIエージェントとの連携が可能

「WMC Ver.4.0」を介して、AIエージェントからWinActorシナリオを実行できるようになります。これにより、AIが収集した情報をもとにWinActorが確実に処理を実行する高度な自動化が可能になります。従来のようなAPI仕様の事前把握や技術的な知識は不要で、自然言語によるやり取りだけでワークフローを自動化できます。

#### (2) 既存資産の最大活用

すでにWinActorをご利用中の企業は、現在お持ちのシナリオをそのまま活用し、AIエージェントとの連携を簡単に実現できます。初期設定を行うことで、追加開発や複雑な設定をすることなく、自然言語による指示だけで高度な自動化処理を開始できます。これにより、導入コストや工数を抑えながら、業務の精度を大幅に改善します。

#### (3) 安全で標準化された通信

「WMC Ver.4.0」が提供する「MCPサーバー」は、AIエージェントと外部ツール・データ(データベース・ファイルシステムなど)を安全かつ標準化された通信方法で接続します。これにより、定型的な業務を正確に実施しつつ、非定型な情報処理まで含めた自動化を、導入コストや工数を抑えて実現できます。

### 4. MCPサーバーの役割

「MCPサーバー」は、RPAとAIエージェントをつなぐ橋渡し役として機能し、両者の連携を円滑にする重要な役割を担います。業務自動化は、これまで「RPA(手足)」と「AIエージェント(頭脳)」の二つの役割にわかれてきました。

- ・ RPA: 定型的な業務を正確に実行
- ・ AIエージェント: 複雑な情報を理解し、自律的に判断

この二つが連携することで、AIが「判断」し、RPAが「実行」する高度な自動化が可能になります。

## 5. 企業が得られる価値

### (1)WinActor利用中の企業

既存シナリオをそのまま活用し、追加開発なしでAIエージェントとの連携を実現します。

### (2)AIエージェントを利用中・検討中の企業

AIエージェントを活用し、WinActorとの連携で業務実行力を強化します。AIの判断力とRPAの確実性を組み合わせ、投資効果を最大化します。

## 6. 提供開始

2026年2月16日

## 7. WinActorについて

WinActorは、2010年にNTTアクセスサービスシステム研究所で開発されたWindows端末上の作業を自動化する技術をベースに、NTT-ATで2014年に製品化しました。「プログラミングスキルがなくても現場の担当者が使える操作性＝現場フレンドリー」をテーマに進化し、日本企業のバックオフィス業務の自動化において多くの実績を誇ります。

2025年3月末には導入社数8,500社を突破し、販売開始から13年目を迎えました。今後もAIとの連携を強化し、日本企業に最適なAX・DXに貢献してまいります。



\*1 Model Context Protocol

AIアプリケーションが外部のツールやデータソースにアクセスするための標準的なプロトコル

※WinActorはNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。

※本文中に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のデータは発表日現在の情報です。予告なしに変更されることがございますので、あらかじめご了承ください。

### ■本件に関するお問い合わせ先

NTT アドバンステクノロジー株式会社

【商品に関するお問い合わせ先】

WinActor お問い合わせページ

<https://winactor.biz/inquiry/winactor.html>

【報道関係のお問い合わせ先】

経営戦略室 経営企画部門

広報担当

後藤・根本

